体育科　授業実践報告

単元名　アルティメット（ゴール型）

令和６年１月２４日（水）第５校時
授業実践　第５学年１組

≪本時の目標≫
・ルールを工夫したり、自己やチームの特徴に応じた作戦を選んだりしている。
【思考力、判断力、表現力等】

深い学びポイント

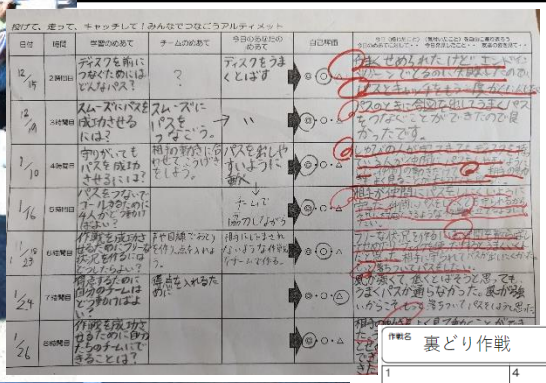
１　つかむ	２　見通す	３　自力	４　協働	５　練り上げ	６　メタ認知

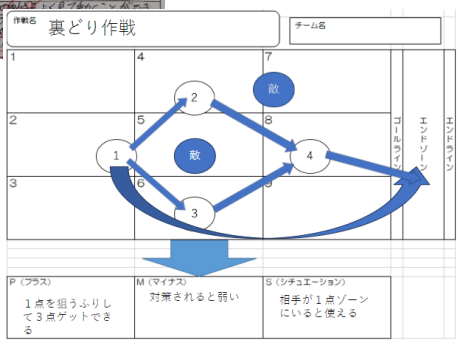
≪授業展開の工夫≫
〇思考ツールを活用した児童間の関わり合いの増加
〇トライ＆エラーを繰り返すことのできる場の整備
をすれば、

≪児童の変容≫
自己や周りの状況に対して、最善の方法に気付き、実践する姿がみられ、
「深い学び」が実現されるであろう。

深い学びに到達させる手立て１

振り返りに根拠をもたせる学習カードの工夫





いつもより風が強かったからもっと短いパスを中心に次回はやってみようと思う。

「主発問」と「導きたい答え」を明確にした単元計画を組んだ。その結果、児童が活動の見通しをもって取り組むことができた。振り返りの掲示をして学んだことを可視化することで、毎時間の学びを明確化することができた。

学習のめあて・チームのめあて・個人のめあてを学習カードに記入させることで、児童自身が１時間の中で何を学ぼうとするかを可視化した。また、学習カードにおいては、自己評価の記入と、なぜその評価にしたか根拠をもたせることを意識して授業を進めた。

深い学びに到達させる手立て 2

トライ＆エラーを繰り返すことのできる環境の整備

今日は短いパスを
つなぐ作戦でいこう！

低く・速く・まっすぐ飛ばそう！

チームの特徴に応じて、①チーム内練習（ドリルゲーム）②チーム内練習（タスクゲーム）③兄弟チーム練習試合の選択をさせた。

基礎的な技能力向上を目指したり、作戦の実践練習をしたりと、チームの練習目的を明確にさせて活動に取り組むことができた。

深い学びに到達した姿

「ゴール型」の単元だからこそ「勝ち」にこだわった。「勝ち」を目指すために、作戦を中心にチームとしての力を高める姿が見られた。

チームの特徴に応じた作戦を立案→実践→修正を繰り返して活動していた。

天候や得点差、相手チームなど状況に応じて臨機応変にチームの動きを変えて活動していた。

指 導 講 評

さいたま市教育委員会指導１課　主任指導主事　大澤　諭先生

○体育授業の前提条件である「楽しい」という思いを児童がもっていた。

○学びが難しい「ボール運動」において集団に属さない児童がおらず、全員が参加できる状態ができていた。

○高学年段階において必要な「達成感」を意識させようとしていた。今回であれば「勝つ」という明確な目標に向かって、授業や単元計画がマネジメントできていた。

○「主発問」→「導きたい答え」による学びの連続性が考えられた単元計画になっていた。

△悪天候での中での授業であったため、「授業マネジメント」＋「イレギュラーへの対応」の２つの視点で授業を組み立てるべきであった。予定では本時は「思考・判断」に注力する時間であったが、学びのプロセス的には「知識・技能」に立ち返ってもよかった。

△途中から始まるときの作戦や、試合開始位置の工夫など、場・ルールを柔軟に変更していくとさらによいと思う。

成果と課題

◎　単元の設定や、ルール作りを通して配慮の必要な児童のことを考えた単元計画を作成することができた。

◎　集団達成型のパワーアップタイムや兄弟チームでの練習試合を通して、体育科の授業に必要な喜び、達成感につながる「勝つ」「できる」という思いをもつ児童が増えた。

◎　教師が作成した作戦をもとにして、児童自身で考え、選択できる環境が整備できた。

△　「勝つ」という明確な目標を設定しているからこそ、授業終盤に勝敗の共有をしたり、「負け」が続いているチームに対する意図的支援をしたりすると、さらに「勝ち」にこだわることができた。

△　理解のレベルとして、「頭→目→体」の三段階の理解がある。イレギュラーへの対応として視覚的に投げ方などの技能面をもう一度考えさせる時間があるとよかった。